

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075600124
法人名	社会福祉法人 若宮会
事業所名	グループホーム わきたの里
所在地	福岡県宮若市脇田805番地 (電話) 0949-54-1082

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 8月 7日
評価確定日	20年 9月 8日

【情報提供票より】 (平成20年 7 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	11 人 常勤 11人 非常勤 0人, 常勤換算 4.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	18,500 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年 7 月 20 日事)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	9 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	77 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) 笠松会 有吉病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くには歴史のある温泉や史跡などがあり、自然に囲まれた緑の多い山里に位置した2階建ての事業所である。母体法人が運営する特別養護老人ホームが隣接している。内部は転倒時衝撃が和らぐ床材使用や、換気や採光にこだわり、開放感のある雰囲気になるよう工夫されている。介護面では、事業所独自の地域密着の理念を掲げ、利用者が事業所を自分の家と思えるような、ゆったりとした利用者本位の介護を行っている。職員研修にも力を入れ、その実践を日々のケアに活かしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の評価結果の要改善項目について検討を行い、「改善に向けた目標」を作成し優先順位をつけ、管理者及び職員が意見を出し合いながら積極的な改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年の評価結果を踏まえて今回の自己評価を行っており、管理者及び介護計画担当者は、全職員の協力のもと意見を集約して作成した。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	<p>行政担当者を運営推進会議のメンバーに加え、定期的に会議を開催している。会議では実績や行事、研修報告及び外部評価の結果を報告している。参加者の意見や協力で地域との連携が深まるきっかけ作りができる等、それらをサービス向上に活かしている。また、会議の内容について家族へ開示を行っている。</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>事業者便りを毎月発行し、家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態などを報告している。また、行事等の写真も見せて様子を報告している。緊急時は、家族に電話で連絡している。金銭管理については、金銭納帳の作成を行い、収支の報告を行っている。本人・家族が確認している。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>中学生の体験学習の受入れや、近隣の幼稚園・小学校等との交流を行い、地域の文化祭や福祉祭り等に参加して地域との交流を進めている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の視点を盛り込んだ事業所独自の理念を、全職員で協議してつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念を職員全員で作成しており、管理者及び職員が理念を意識し協議しながら実践に取り組んでいる。理念は事業所の目立つ場所に掲げられている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学校の体験学習の受け入れ、近隣の幼稚園・小学校等との交流を行っている。また地域の自衛消防団の協力を受けたり、文化祭や福祉祭りなどに参加しており、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と全職員は、昨年の評価結果を踏まえて、地域密着型理念の作成・共有・実践、人権教育等、改善計画に優先順位をつけ、着実に改善を行っている。自己評価については、管理者及び介護計画担当者が、全職員の協力のもと意見を集約し作成した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催しており、実績や行事、研修や外部評価について報告している。参加者の意見や協力で地域との連携が深まるきっかけ作りができる等、サービスの向上についての助言・意見等を得て運営に活かしている。また会議の記録を家族に開示し、事業所の運営について理解を得られるよう努力している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所のパンフレットを市町村窓口に置き、利用者の問題についてケースワーカーや担当者に相談し、連携を図り、サービス向上に活かしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修を受けた職員が、職員全員へ伝達研修を行っている。また成年後見制度のパンフレット及び資料を事業所に備えている。必要に応じて家族に説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業者便りを毎月発行し、家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態などを報告している。また、行事等の写真も見せて様子を報告している。緊急時は、家族に電話で連絡している。金銭管理については、金銭出納帳の作成を行い、収支の報告を行っている。本人・家族が確認している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置している。職員は家族の来訪時に、要望や意見等を言い易い雰囲気をつくるようにしている。運営推進会議には家族も参加し、家族から出た意見・要望等に対しては、解決できるよう全員で話し合い、運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員との対話等を心がけて早期に相談できるような環境をつくっている。退職や異動による職員交代がある場合は、十分な引継ぎ期間を設けたり、職員自身が異動後も利用者とは度々会うなど、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に関しては、性別や年齢等では排除せず、高齢者に優しい人柄を求めている。事業所及び法人は、職員の能力が発揮できるように、資格取得や配置について協力的であり、職員の資格取得やスキルアップが図られている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を踏まえ、職員の人権教育に力を入れ、職員の人権意識も向上している。伝達研修・学習を含め全員が人権研修に取り組んでいる。個人情報、虐待防止等を職員会議の折に学習し、マニュアルや資料を備えている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は経験に応じた研修を受ける機会が与えられており、上位資格取得や希望する研修に参加したり、1週間程度他の施設に研修に行ったりしている。研修した内容は他の職員にミーティング等で報告され、全職員が働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	直鞍地域の同業者・医療施設で構成された“高齢者の「食」と「排泄」に関する直鞍勉強会”に加入しており、管理者・職員は定期的に参加している。その際、業務内容等について情報交換や事例の検討等も行い、サービスの質の向上のための交流及び勉強会を実施している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族には必ず事前見学をしてもらい、利用者宅、施設・病院に訪問し面接も行っている。利用者の状態把握等により利用後の適切な対応と利用者が早く馴染むような検討を行っている。必要に応じて併設特養施設のショートステイを利用するなど、本人が不安なく利用できるように工夫をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「慈愛の心 尊厳を守る」「心と心が通じ合い喜びを分かち合い安心と尊厳のある生活を営む」を心がけ、人生の先輩として謙虚な気持ちで関わるようにしている。利用者は、職員に行儀作法や調理のアドバイスを行ったり労をねぎらう場面もあり、利用者、職員が共に過ごし支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で利用者に声掛けをし、一人ひとりの思いや希望の把握に努め支援している。意志表示の難しい利用者については日々の行動や表情を観察し、また家族からの情報で、本人本位の支援ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人・家族の思いや意向及び居室担当職員を中心とした全職員の気づきを取り入れて作成している。介護計画の家族への説明と承認の署名・押印をもらっている。		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回を基本にし、安定している人は6ヶ月に1回の見直しを行っている。日々の生活での小さな変化はセンター方式のシートを活用して把握し、急な食欲低下等の変化に対応し計画の随時見直しも行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院の際は、職員が訪問し、病院側との相談・連携、家族との連絡調整を通して早期退院に努めている。骨折等での入院は、医師とも相談しながら、事業所でのリハビリが可能な、出来る限りの早期退院を支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続を希望される方には、支援している。また、連携協力病院からの往診が毎週あり、2週間に1回は利用者全員が診察を受けている。必要な通院に対しては職員付き添いで送迎を行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の対応については事業所に指針があり、利用時に説明を行っている。個々人の重度化についてはかかりつけ医に十分相談し、事業所の体制も考慮して、本人・家族と協議し、希望にそうよう支援する体制をつくっている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報・プライバシーに関しては内部研修・ミーティング等で意識化され共有化が図られている。職員は日常の利用者への声掛けにおいても、プライバシーを意識した対応がなされている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操・リハビリ等のおおまかな流れはあるが、利用者一人ひとりのその日の体調・希望にそって、その人らしい暮らしを支援している。気候のよい時のベランダでの食事、少人数での散歩など希望を取り入れている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	派遣職員が毎食の調理を行い、職員と利用者が片付けを一緒に行っている。職員は弁当等を持参し利用者と一緒に食事を摂っている。	○	利用者と職員の関係作り等の視点から、職員が利用者と共に食事一連の作業を行い、同じ物を一緒に味わいながら食事をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>主に午後を中心に入浴しているが、希望に沿い柔軟に対応している。入浴拒否の利用者には、時間・話題を代えて入浴に誘う等工夫して支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>掃除・洗濯物たたみ・食後の食器やランチョンマットの片付けを役割として行うなど、小さなことでも利用者の出来ること、得意なことを職員は把握し支援している。農業に親しんでいる利用者も多く、花の水遣りを楽しみにしている人もいる。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の体調や希望または天候等を考慮し、概ね毎日の散歩、月1回の誕生者の外食、通院時等を利用しての買い物、花見・イベント等での月2回程度のドライブ等の戸外活動の楽しみを支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、居室や玄関には施錠はない。職員は鍵をかけることの弊害を理解し、外出傾向等ある利用者を把握し見守りや付き添いを行っている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを整備し、訓練記録等も整っている。年に消防署の協力で1回、法人事業所合同で2回、訓練を実施し、地域消防団に参加・協力の連絡調整を行っている。非常用食料や飲料水、備品等を準備している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量の記録が利用者全員分ある。委託先の栄養士が利用者の希望・嗜好や職員の意見を取り入れながら献立を立てている。2ヵ月に1回、法人の栄養士にも専門的なアドバイス・チェックを受けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には利用者の作品や所々に季節の花等が飾られ、落ち着いた雰囲気がある。お気に入りの椅子やソファがそれぞれあり、利用者は手作りの足置きを使用してくつろいだり、テレビを観ながらの会話を楽しんでいる。音や採光にも配慮している。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には馴染みの物が持ち込まれており、それぞれに個性的である。机・椅子・タンス・仏壇等馴染みの物が持ち込まれ、出窓には家族の写真・鉢植えの花等が置かれている。</p>		

※ は、重点項目。